

復興研究会報告

NO.14(平成29年度 第2号)

発行

岩手県立大槌高等学校

復興研究会・OA部

発行日

平成29年7月27日

鎮魂の森ワークショップ

犠牲者への追悼・鎮魂のグループでした誰のためなのか、
どういう思いで行うのか、どんな事をしていけばいいのかなどを
グループで話し合い、たくさんの意見が出て、私は改めて、「震
災のことは忘れてはいけない」や「今、自分が生きている大切さ
はどれほどか」などたくさんの事を考える事が出来ました。平成
32年に鎮魂の森がどんな感じに出来上がっているのか、とても
楽しみです。それまで自分が出来ることをしていけたらいいと思
いました。今回ワークショップに参加して良かったです。

(3年女子)



私たちのグループでは、震災の情報を正確に次の世代へと伝える
ためには、鎮魂の森には何が必要であるかを考えました。その結果、
何か復興イベントや露店を出して人を集め、その後、震災時の状況
を的確に伝えるということにしました。今回考えたアイデアが採用さ
れて実現されてほしいと思います。

(3年男子)

私は、「憩い・交流空間の形成」についてのワークショップに
参加しました。人が集まり交流し、震災の伝承ができるような空
間を作れるよう意見を出し合うことができたと思います。私達高
校生の考えを町づくりに反映してもらえることは、とても嬉しい
と感じました。今後も頑張りたいです。

(2年男子)



前回の事前学習会を踏まえ今回は鎮魂の森に必要なもの、やっ
てみたいことは何かなど、それぞれグループに分かれて話し合うこ
とが出来ました。役場の方から駅の中にカフェが出来ること、Wi-
Fiの設置など少しずつ高校生の意見が取り入れてもらえることを
嬉しく思いました。高校生が町に対して意見を言うことは、とても貴
重な体験だと思うので、子供から高齢者が憩い・交流空間の形成
を目指し全国へ発信出来るための町作りを目標にこれからワーク
ショップを続けていきたいです。

(3年女子)

日本災害防災学会

2017年現地研修会

今回災害防災学会の方に、町を案内して、自分自身も町について深く知ることができたと思いました。学会の方々の話の中では、他の場所で震災があったときの話や、この大槌町には何が必要か、など普段聞くことのない視点からたくさんの意見を聞くことができました。また、あのような形で話をしたいと思いました。（3年女子）



初めての体験だったので、緊張しましたが自分なりの答えを出せたと思っています。同級生が少なく、先輩だらけの中で自分の考えを言うのはとても勇気がいりましたが、皆と答えが違ってても大きな声で正直に発表できたことで自分にとっても自信が付きました。今までこのような会に参加したことが無く、避けてきましたがやってみて自信が付き、とても楽しいと思いました。次回も是非参加してみたいです。

（2年女子）



東日本大震災から6年が経ち、被災地の復興について考えるいい機会でした。私自身、復興していることに気づいていなかったこともあり、専門家の方を、始め被災地の代表の方々、町民の方々の意見や思いを知ることができ、新たな発見もありました。これからの大槌復興、未来に期待しています。（3年女子）



今回復興とは何かを本音で議論する会に参加して、はじめはとても緊張していました。いつもは大槌町ではない方々からお話を聞く機会がなかったので、たくさんのお話を聞くことができ良かったです。また、議論していく中で、復興に対するの思いは人それぞれ違うことがわかりました。今回、話し合いに参加することができて良かったです。（3年女子）

震災時の状況とこれからの大槌町の復興の希望を大人に対して話すことはとてもいい経験になりました。大槌町はたった6年でここまで復興してきました。前の大槌町に戻る日は、近いうちに来ると思っています。これからの進路のために大人と話す練習をこれからも行っていきたいです。（3年男子）

